

市民活動推進センター だより

発行：鎌ヶ谷市市民活動推進センター 発行月：平成20年 2月 NO.8(不定期)

セミナー

『NPO マネジメント』講座 開催しました



この講座では「人と資金に恵まれる団体運営とは？」をテーマに、NPO法人シニアSOHO普及サロン三鷹 顧問の堀池喜一郎氏から、その運営のコツを学びました。

このNPO法人は、1999年の設立から6年間で45件、4億円の協働事業を行った実績があり、事業型NPOとして先駆的存在です。そこでは毎年100人のシニアが楽しく有償活動して、町の活性化に大きく貢献しています。堀池氏はこの団体の代表として、設立から様々な運営に携わってこられました。

前半は、『アクティブシニア』『コミュニティ』『コミュニティ・ビジネス』『協働』『都市構想』という五つのキーワードをもとに、地域で主役となって活動するシニアのための基本知識が伝授されました。

中でも、ボランティア精神とビジネスの方法が必要とされる新しい働き方の多様性やバランスは、地域活動における大切な視点だと感じました。



次に、三鷹市の取組みが紹介され、下請けでない「パートナーシップ」型の協働をすすめていくうえでの都市構想(自治体の目指す方向性)の重要性について、言及されました。

後半は、具体的な運営の工夫として、ワーキンググループの仕組み、PCアドバイザー研修、メーリングリストの活用、交流会、地域課題解決のプロデュース、市民側の協働体制など、具体的な話がありました。団体運営や、活動の展開において、ヒントになる内容がたくさん盛り込まれていました。



また“どこ竹@竹とんぼ教室”の活動も全て有償で行っていて、その仕組みや運営方法は、インターネット活用教育コンクールにおいて、文部科学大臣賞(06年度)を受賞しています。



この講座をきっかけに、鎌ヶ谷における市民活動がますます発展していくことを期待できる講演会でした。

シニア SOHO 普及サロン

検索

『どこ竹』

検索

団体紹介

NPO法人 鎌ヶ谷たすけあいの会

<団体データ>

代表者 周藤 正信(しゅうとう まさのぶ)
 団体所在地 〒273-0125 鎌ヶ谷市初富本町2-12-19
 TEL・FAX 047-444-6569
 e-mail tasukeai0117@mail.goo.ne.jp
 URL http://chiba.cool.ne.jp/tasukeai0117/index_001.htm

<活動情報>

- ・ 有償ボランティア(家事援助、介護、散歩等)
- ・ 市の委託事業(配食サービス他)
- ・ 介護保険事業
- ・ 移動サービス事業(移動困難者の病院、買物お墓参り等の送迎)





活動の目的は？

鎌ケ谷市と近隣の市民を対象とし、生きがいある長寿社会と公益増進に寄与することを目的としています。



団体のアピールポイントは？

- ・ 助け合い事業と介護保険事業の両方を行うことで利用者の生活をしっかりと支えることができます。
- ・ 行政や大きな組織ではカバーできないことを、「できる人が、できるときに、できる範囲で」互いに助け合うという会の主旨に基づいて、助け合い事業では、介護保険の対象とならないサービスを有償で行っています。
- ・ 会の主旨を大切にしながら、利用者がしてほしい仕事をしています。



工夫している点

新しいことを始めていこうという気持ちがないと、活動が停滞するので、新しい取り組みのことを常に意識しながら活動しています。



実績

助け合い事業から始まった活動が、介護保険事業、移送事業、配食事業（鎌ケ谷市からの受託事業）に広がっています。



今後の活動の方向性

- ・ 高齢者だけではなく、子どもたちや地域の人たちも集えるような“ふれあいの場所（居場所）”づくりをしていきたい。
- ・ ヘルパー研修の充実を図ることで、利用者さんに喜んでもらえるサービスを提供していきたい。
- ・ 行政とNPOとの連携による事業の拡大を図っていきたい。



取材を終えて・・・

困ったときに互いに助け合うところからスタートして、介護事業までに進められた活動が、介護事業展開の活動拠点となる事務所も、活動しやすいように改造もソフトも自分たちで活動スタイルもつくられた。



団体設立に至った経緯は？

「行政ではできない“すきま”の仕事ができるといいな」という発想から、さわやか財団で研修を受け、1996年に団体を立ち上げて助け合いの活動を行ってきました。2000年の介護保険の施行に伴い、利用者さんから「介護事業所はやらないの？」「介護保険を利用しても、これまでと同じヘルパーさんに来てほしい。」という声があったこと、また、これまでの利用者で介護認定者が増えたこと、赤字運営の問題、有償ボランティアを望む声など、様々な要因が重なり、介護事業者となることを決めました。そして2003年、介護事業認定を受けるため、NPO法人になりました。



これまでの活動で嬉しかったこと

- ・ 車の運転はできない、料理もできない・・・そんな自分でも、配食サービスに同乗していくと、来るのを楽しみに待っていてくれる利用者さんがいることが、とても嬉しいです。
- ・ スタッフとして活動しています。これまで会社でやってきたことを活動に活かせることが嬉しく、退職後の居場所になっています。また、様々な人たちが関わりやすい雰囲気があり、とても居心地がよいです。
- ・ 加齢とともに外出が困難になった利用者さんがいました。成田山のお札の交換に行けないことがとても気がかりだったようですが、当団体のスタッフが、本人の代わりにお札の交換をしてきたことで、心のつかえが取れたととても喜んでくれました。



活動していて困ったこと

- ・ サービスの利用会員さん、サービスの提供会員さんへのPRが弱いこと。
- ・ 介護保険の利用による自己負担より、助け合い事業の利用による自己負担のほうが大きいこと。
- ・ 福祉団体同士の情報交換が少ないこと。
- ・ 若者や団塊世代の活動参加者が少ない。継続的にサービスを提供するためにも、人材面での強化が必要になっていること。
- ・ 税金の負担が企業と同じため、新しい事業展開のための資金の積み立てが難しいこと。
- ・ 法律にあわせて会の対応（活動）を変えなくてはならないこと。